

令和元年度 学校評価 総括評価表

評価基準 A：十分に達成できた B：概ね達成できた C：十分には達成できなかった D：全く達成できなかった

令和元年度重点課題

- 1 学校運営体制の充実
- 2 人権教育の推進
- 3 学習指導の充実
- 4 進路指導の充実
- 5 生徒指導の充実
- 6 特別活動の活性化
- 7 安全教育と環境教育の推進
- 8 グローバル化に対応した教育の推進
- 9 特色ある学校作りの推進
- 10 情報教育の推進

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
1 学校運営体制の充実	①チーム市高としての調和と統一のある学校運営を図る。 ②教職員のコンプライアンス意識の高揚を図る。 ③校内外での研修を通じて、指導力の向上を図る。	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) A ----- (所見) ①新学習指導要領による学習へのスムーズな移行や新入試制度の実施を見据え、主体的、対話的で深い学びの実践に向けての研修や組織づくりを行った。 ②全体でのコンプライアンス研修を計画より1回多く実施し、職員朝会を使用して定期的に委員会からの通知や交通安全等の資料を配付し、啓発や注意喚起に努めた。 ③「目標管理シート」の申告・報告の作成と校長面接、各種研修会等への参加を通	既定の研修や目標管理シートに基づいた評価は熱心に行われている。校外での授業研修の機会も多くあるので、校外で得た研修成果を校内で共有し、醸造させていくような取り組みも進めてほしい。教職員の数値が目標値を上回らなかったのは、逆に意識の高さの表れであるとも言え、生徒にそのような気持ちが反映されている。 ②風通しの良い環境づくりを推進し、コンプライアンス意識を徹底する。研修を、年間を通じて機会ある毎に実施する。職員朝会で注意喚起するとともに、外部講師を招いての研修やeラーニングによる研修を引き続き実施する。 ③各種研修会や講習会・発表会等に関する情報を周
		①教職員アンケートの「本校の基本方針である「学問」「スポーツ」「芸術」を3本柱とした教育がなされている」という項目において、「①よくあてはまる」の回答率65%以上をめざす。	①教職員アンケートの集計結果を見ると、「①よくあてはまる」は回答率57.7%で、指標の65%には届かなかった。ただし「②ややあてはまる」を加えると回答率88.7%に達している。		
		②コンプライアンス研修を3回、職朝等での啓発、注意喚起を年12回以上実施する。	②全体の研修を、①夏のeラーニングによるコンプライアンス研修(7/1～7/20)、②夏のコンプライアンス職員研修(8/7)、③冬のeラーニングによるコンプライアンス職員研修(12/1～12/20)、④冬のコンプライアンス職員研修(12/19)の4回実施した。また、職朝等での啓発、注意喚起を13回(1月末現在)実施した。		
		③「目標管理シート」の研修の項目の達成率90%以上を目指す。	③「目標管理シート」に自ら掲げた研修内容については、94.7%の者が取り組むことができた。		
		活動計画	活動計画の実施状況		
		①管理職と各課(室)長・各学年主任が中心となって、各課(室)・各教科・各部活動等がお互いに報告・連絡・相談を密にして調整を図り、調和と統一のある学校運営を図る。	①会議の縮減や業務の効率化等の観点から、会議という形はとらず、普段の取組の中で連携を密に取り合うことで諸課題に対応してきた。24に及ぶ各種委員会については必要に応じて開催し課題に対応した。		
		②コンプライアンス推進計画に基づいて、外部講師による研修会やeラーニング、職朝での啓発を実施し、教職員の服務規律の一層の徹底を図る。	②県教育委員会からコンプライアンス推進室長を講師に招いて、8/7に全教職員を対象に夏のコンプライアンス職員研修を実施した。また、冬のコンプライアンス職員研修(12/19)に臨時に実施した。		

		<p>③教育委員会による学校計画訪問等も含め、職員研修・研究授業を計画的に実施するとともに、先進校の視察や予備校等の授業力研修に積極的に参加する。</p> <p>③校長との面談を年2回以上実施し、育成評価システムの「目標管理シート」を効果的に活用する。</p>	<p>③学校計画訪問時に国語・数学で研究授業を実施、他にフレッシュ研修Ⅱやあわじんけん講座、ジャンプアップ講座、ミドルリーダー研修における研究授業も実施し、授業力向上に努めた。また「夢実現応援事業」において、現時点で書道の教員が先進校視察を行い、3学期中に理数科の教員が視察を予定している。</p> <p>③「目標管理シート」の当初申告時と最終報告時に校長面接を実施した。また、常勤講師についても同時期に校長面接を実施した。</p>	<p>して、様々な指導力の向上に各自取り組むことができた。</p>	<p>知して参加を促すとともに、参加者による報告書の作成と全体での情報共有を推進し、指導力の向上につなげていく。</p>
2	<p>①人権ホームルーム活動の充実を図る。</p> <p>②人権委員会を中心とした生徒の自主活動の充実を図る。</p> <p>③人権教育職員研修会の充実。</p>	<p>評価指標</p> <p>①1年生は6回、2年生6回、3年生は6回以上の人権ホームルーム活動を確保する。</p> <p>①1年生は1回、2年生は1回の先行授業を行い、全学年での公開授業を目指す。</p> <p>②各HRの人権委員に人権ホームルーム活動の事前研修を実施する。</p> <p>②「市高人権新聞」は年間6回以上の発行を目標とし、記事には人権委員が書いたものを2つ以上掲載する。</p> <p>②「人権展」で来場者100人以上を目指す。</p> <p>②「同和カルタ取り大会」で50名以上の参加を目指す。</p> <p>③PTA研修は2回、校外研修は1回、校内研修は3回以上の開催を目指す。</p> <p>活動計画</p> <p>①人権教育年間計画に基づき、各クラスの実態に即して指導を行う。</p> <p>①担任会で人権ホームルーム活動の事前研修を実施する。</p> <p>①各学年で先行授業(公開授業を含む)を実施する。</p> <p>①1年次の最初と3年次の最後に、人権問題意識調査を実施する。</p> <p>②各HRの人権委員に人権ホームルーム活動の事前研修を実施する。</p> <p>②人権ホームルーム記録用紙を作成する。</p> <p>②「市高人権新聞」を発行する。</p> <p>②市高祭で「人権展」を開催する。</p> <p>②「人権啓発作品展」を実施する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①HR活動 1年生…6回、2年生…6回、3年生…6回</p> <p>①先行授業 1年生…3回、2年生…3回、3年生…2回 全学年で人権ホームルーム活動に際して先行授業を実施し、授業は公開とした。</p> <p>②事前研修 1年生…3回、2年生…3回、3年生…2回</p> <p>②市高人権新聞を年間5回発行。</p> <p>②「人権展」で模造紙16枚以上を展示、来場者156名。</p> <p>②「同和カルタ取り大会」は競技者として53名が参加。</p> <p>③PTA研修は2回、校外研修は1回、校内研修は3回以上を開催。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①1年生は身の回りの差別を中心に学習した。2年生は歴史から差別を捉えることを目標にアイヌや同和問題を学習した。3年生は進学・就職・結婚を中心に学習した。</p> <p>①担任会で人権ホームルーム活動の前に、各学年担当より次回テーマの主旨説明や事前研修を行った。</p> <p>①各クラス担任を中心に先行授業を参観し、授業評価と感想を授業者に提出してもらい、相互の研修とした。</p> <p>①1・3年生に人権問題意識調査を実施し、データの分析を行った。</p> <p>②人権ホームルーム活動の実施前に人権委員会を開き、次回テーマの主旨説明や事前研修を実施した。</p> <p>②各クラスの人権委員は、人権ホームルーム記録用紙を、活動当日または翌日に責任を持って提出できた。</p> <p>②各クラスの人権委員は、担当月の人権新聞作成について責任を持ってやり遂げた。</p> <p>②人権展のためのレポート作成や動画制作を積極的に行った。「まず、知ることから始めよう」と題し、人権展では様々な人権課題の展示を実施することができた。</p> <p>②1月に人権啓発作品展を実施した。</p>	<p>総合評価 (評定) A</p> <p>(所見)</p> <p>①年度当初に作成した人権教育年間計画に基づき、人権ホームルーム活動の実施、それに伴う先行授業については、ほぼ目標通りの成果をあげることができた。3年生に実施した人権問題意識調査では8割以上の生徒が「市高での人権教育は充実していた」と回答した。これまでも目標としてきた、生徒が主体的に参加できる授業形態、生徒が人権問題を「身近」なものとして捉えられる授業内容を、引き続き探究したい。</p> <p>②人権委員会の活動は、年間を通して活発に行うことができた。上の①でも述べたように生徒主体の人権ホームルーム活動の実現に向けて、人権委員の活躍に期待したい。</p> <p>③人権教育職員研修は、計画通り3回実施できた。PTA研修につ</p>	<p>人権HR先行授業や教職員研修など効果的に取り組まれているので今後も続けていってほしい。意見発表会では生徒の多様な感性を感じることも多い。家の中で人権問題について話し合う機会が持ちにくいので、学校での学ぶ機会を大切に思っている。</p> <p>①本校では、人権ホームルーム活動において2授業で1つのテーマを取り扱っているため、次年度も全学年6回での計画としたい。テーマとして取り扱う人権課題は、1年生が同和問題(障がい)・いじめ・外国人、2年生がアイヌ・同和問題・LGBT、3年生が14項目・パートナーシップの予定である。今後、人権教育課内でも再考し、詳細をつめていきたい。担任・副担任がともに人権ホームルーム活動に取り組むことで多角的な視点で物事を捉える力を養いたい。</p> <p>②本校の自主活動は、人権委員会の活動に支えられている。生徒(人権委員)がファシリテーターとなって行う授業の実現、校外活動への積極的な参加も推進したい。その際、できるだけ負担増とならないような配慮が必要である。また、人権問題研究部の活動の活性化にも期待したい。</p> <p>③本年度の研修は、ワークショップの形態を用いて参加者の意見を共有することを目的とした。今後は事後アンケートを活用し、研修を深化する仕組み</p>

		<p>③校内研修を実施する。 ③ PTA 研修を実施する。</p>	<p>③ 1 学期に 2 回、2 学期に 1 回、講師を招いての校内研修を実施した。内容は、5 月に「本校の人権教育について」、7 月には PTA との合同で「子どもとつながる子どもを引き出す」、12 月に「性の多様性の理解と支援」とした。 ③ 9 月の県外研修は保護者・生徒・教職員の参加により京都大学を会場として実施した。上記 7 月の校内研修は PTA と合同で実施した。3 学期の人権意見発表会は PTA 研修の一環として位置づけている。</p>	<p>いても保護者の積極的な姿勢により、一定の成果は得られたと考える。多様な人権問題に対する教職員や保護者の要望に応えられるように、研修のあり方や内容は次年度も工夫していく必要がある。</p>	<p>みを取り入れたい。</p>	
3 学習指導の 充実	<p>①授業日数・授業時数の確保に努める。 ②わかりやすく、魅力ある授業に努める。 ③学習習慣の定着を図る。 ④思考力、判断力、表現力を育成する。 ⑤英語 4 技能を育成する。 ⑥多面的評価を図る。 ⑦学校図書館の「学習センター」機能</p>	<p>評価指標</p> <p>①授業時数を800時間以上確保する。 ②(1年)「学習のかたち週間」を1・2学期の初めに実施する。 (2,3年)「学習のかたち週間」を1学期の初めに実施する。 ②授業満足度80%以上を目指す。 ②校内授業参観週間を1・2学期に 1回ずつ設定する。 ③定期考査前に家庭学習時間調査を実施し、3時間以上学習する生徒の割合を増やし、40%以上を目標とする。 ③定期考査後に「振り返り (リフレクションタイム)」を設定し、取り組みにたいする成果と課題について自己評価させる。 ③学年団を中心とする学力向上研究会を新設し、基礎学力や学習状況についての分析、協議を定期的に行う。 ④補習授業での演習や実力テストでは、全教科において論述問題を出題する。 ④教科会を開き、論述問題についての出題や正答率について分析・検証を行う。 ⑤すべての生徒がネイティブと英会話を行うことができる機会をもつ。 ⑤英語外部検定を複数回受験できる機会を設ける。 ⑥すべての学年において、ポートフォリオを作成させる。 ⑥記録用のワークシートを配布、配信し、HR活動やIRPの時間などを利用して、活動や実績を記録させ、成果や課題について振り返りをさせる。 ⑦ 12 月末までの生徒入館者数について、前年度 2 %アップの 7,240 人以上にする。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①昨年より減少したが、授業時数を確保できている。 2 学期末までの授業時数 昨年度 834 今年度 806 ②「学習のかたち週間」 1 年 2 回実施 2,3 年 1 回実施 ②授業満足度は 78.9%で昨年より 1.1%下降した。 ②各学期に 1 度ずつ実施し、教員間で情報交換した。 ③ 2 学期末の調査では、1 年生 60.6%。2 年生 62.1 %であった。(昨年度 1 年生 36.8 % , 2 年生 32.5 %) ③定期考査ごとに設定し、自己評価をポートフォリオに記入・入力させた。 ③各学年において、ホームルームや個人の学力や学習状況などについて情報共有し、対策について協議した。 ④記述問題を出題し、思考力や表現力の育成に努めた。 ④教科会において、実力テストの出題についての協議・検討を行った。 ⑤ 1, 2 年生は 4 回、3 年生は 3 回、すべての生徒がオンラインによる英会話レッスンを実施し、4 技能の育成を図った。 ⑤民間の英語検定である G T E C を校内で 3 回、英検を 1 回実施した。また、英語検定の案内、受付を随時実施した。 ⑥全学年で学習の成果や活動履歴などをポートフォリオに記録させた。 ⑥ 12 種類のワークシートを準備し、記述と入力の両方で作成させた。 ⑦図書館便りを 10 回発行 (1/15 現在) ⑦開館日数 173 日で、年間利用延べ人数 6,151 人、一般貸出 (生徒個人+団体) 冊数 1,449 冊。(1/15 現在)</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) A (所見) ①わかりやすく生徒にとって魅力ある授業を目指し、校内授業参観等を通して、今後も努力を継続したい。 ②授業参観や授業評価を通じて、授業改善に取り組み、目標値に近い満足度を上げることができた。 ③定期考査前の学習時間は増加傾向にあるが、継続した取り組みに課題がある。 ④思考力、表現力の育成のため、授業や評価のあり方を工夫する必要がある。 ⑤事後の指導の拡充や適切な評価が必要である。 ⑥定期考査後の学習への取り組みに対する振り返りは定着させることができた。ポートフォリオの内容についての指導に課題がある。</p>	<p>授業時数の確保について引き続き取り組んでほしい。校内授業参観については、中々進みにくい所があると思うが、ただわかりやすいだけではなく、授業の魅力を高めて生徒の学ぶ動機づけとなるような授業を目指すためにも進めていってほしい。 学力向上研究会は 1 学年から行っている。入試制度が複雑化しているの、保護者への情報提供も更に効率的に行っていただきたい。 英語 4 技能の育成について I C T を活用して取り組んでくれているのでありがたい。I C T がカバーできない力を図書館等が提供する意味は大きい。 クラウドを使ってポートフォリオを生徒が入力したり、模試結果を確認したり、情報提供したりできるので便利である。 図書館の活用については一層進めていってほしい。 新聞については未購読の家庭も増える中で難しい面があるが、漫画記事を引用するなどハードルを下げて関心を高めていってほしい。</p>	<p>①行事日程の見直しや行事の精選によって時数を確保できた。 ②校内授業参観や教科会議が、授業力や指導力の向上に十分機能するよう時間の確保を含め、充実させる。教科会議は学年教科会の充実もはかりたい。授業参観や授業評価については、実施率が 100%となっていないので、今後参加を呼びかけていく必要がある。また、アクティブラーニングや ICT 教育等新しい教育の形も生まれて来ているので、新旧教員がお互いに学び合う意識を作ることが重要である。 ③早期からの学習習慣の定着のために、アダプティブラーニングを取り入れるなどの工夫を行いたい。 ④共通テスト、新学習指導要領を見据え、評価のあり方を見直していきたい。 ⑤リフレクションシートなどを活用し、4 技能の定着・向上に向け、英語科と連携して取り組んでいきたい。 ⑥ポートフォリオを活用して、学習の振り返りを拡</p>

の充実を図る。

⑧自ら学び、考え、判断できる主権者を育成する教育の充実を図る

<p>⑧新聞発表を通じて、新聞を読む習慣のない生徒の割合40%以下を目指す。</p> <p>⑧各学年において、主権者教育に関わる講演や模擬選挙などを1回以上行う。</p>	<p>⑧今まで新聞を読む習慣が無かった生徒が87.7%いた(3年生文系)が、39.3%の生徒に読む習慣が生まれた。しかし、依然48.4%の生徒に読む習慣がない。昨年36.4%</p> <p>⑧各学年1回ずつ実施すると共に、HRや教科において事後指導をした。</p>	<p>⑦今年度の1/15現在の入館者数は目標に大きく届かなかった。その要因を探るため、入館者数と生徒の個人貸出冊数について過去3年間で比較してみると、H28年度4,506人、1,219冊、H29年度5,494人、1,370冊、H30年度7,102人、1,030冊に対し、今年度は5,884人、1,297冊であり、昨年度入館者が増加した理由は、自習利用の増加であることが確認できた。今年度は入館者数は昨年度を大きく下回ったものの、生徒の個人貸出冊数、団体貸出冊数はともに昨年度を上回っている。これは、図書委員主催の図書館展の工夫や2学期末に実施したビブリオバトルの成果でもあると考えるが、まだまだ本の動きが少なく、課題は多いと考えている。</p> <p>⑧公民科の授業だけではなく、生徒会役員選挙やHR、総合学習の時間等に社会への関心を高め、意見交換をする時間を設けた。生徒アンケートによると、年度初めに新聞を読む習慣のない生徒が全体の88%を占めていたが、うち45%が少し読むようになったと回答している。また、従来読む習慣のあった生徒もより深く記事を読むようになった</p>
<p>活動計画</p>	<p>活動計画の実施状況</p>	
<p>①行事を精選し、授業カットや短縮はなるべく避け、振り替え授業を徹底する。</p> <p>①45分の授業に集中するため、チャイムとともに授業を始める。</p>	<p>①出張・年休は可能な限り振り替え授業で対応した。授業時数の確保については、全職員共通認識の上で定着しつつある。</p>	
<p>②学期の最初の1週間を「学習のかたち週間」とし、全教科科目で実施する。予習・復習・ノートのとり方・授業に臨む態度など望ましい学習習慣の定着に努める。</p> <p>②教科会議で話し合い、授業方法の改善に努める。生徒による授業評価を行う。</p> <p>②校内授業参観週間では授業参観カードを有効に利用し、教師相互の授業改善に努める。</p>	<p>②1学期当初は全学年に、2学期当初は1年生に実施し、教科担任から具体的な解説を行い、生徒の学習習慣の定着を図った。</p> <p>②1・2学期末に授業評価をし、生徒の意見を授業に反映させると共に、教科会で授業改善に取り組んでいる。</p> <p>②参観者の感想を授業担当者に渡し、授業改善の参考にしている。</p>	
<p>③週間課題・日々の課題を活用し、学力の定着を図る。</p> <p>③学習時間調査の期間を利用して、生徒一人一人の学習状況を確認するとともに、学習習慣の定着を促進する。</p>	<p>③課題を活用し、学習習慣の定着に取り組んでいる。</p> <p>③一人一人の支援に役立てるとともに、ホームルームにおいて、あるべき集団づくりの機会として活用した。</p> <p>③自習室を平日8:30~19:00、休日8:30~16:30に年間を通じて開放した。1月17日まで243日開放。</p>	
<p>④補習授業の計画・実施や実力テストの作成などの機会を活用し、思考力、判断力、表現力の育成を図る。</p>	<p>④主体的な学び、思考力、判断力、表現力の育成を踏まえた、補習授業の計画、実力テストの作成を行った。</p>	
<p>⑤ICT環境の整備を計画的に進める。</p> <p>⑤英語外部検定の受験機会を拡充するとともに、取得に向けた対策を講じる。</p>	<p>⑤進路指導室にWi-Fiのアクセスポイントを設置し、生徒がタブレットを利用できるようにした。</p> <p>⑤民間の英語検定であるGTECを校内で3回、英検を1回実施した。また、英語検定の案内、受付を随時実施した。</p>	
<p>⑥IRPやキャリア教育と連携して取り組む。</p> <p>⑥ポートフォリオに基づき、生徒の活動について多面的に評価を行う。</p>	<p>⑥IRPの年間の活動計画に盛り込んだ。</p> <p>⑥IRPやホームルーム活動などの機会において主体性、協働性などについて評価する機会を増やした。</p>	
<p>⑦教科や学年との連携を強化し、授業内容に合った資料の収集に一層努める。</p>	<p>⑦教科に予算配分し、購入書籍の推薦を依頼し購入したり、クラス毎にビブリオバトルを実施したりするなど、教科や学年との連携を図ることができた。</p>	
<p>⑧夏季休業中の課題として、地歴・公民科でレポートを提出させることで表現する力を向上させる。</p> <p>⑧公民科において、新聞を使った発表を行い、社会問題への関心を高める。</p> <p>⑧各学年において、公民科の授業や総合学習における講演や体験的学習等を通じ、生徒の意識を高める。</p>	<p>⑧1年生の科目「現代社会」の夏休み課題として地域調べの課題を出し、教科で評価した他、クラスで発表会を行い、IRPの北海道調べに活用した。</p> <p>⑧1年生全クラス・3年生文系クラスにおいて、新聞を使った発表を行い、生徒同士の意見交換の時間も盛り込んだ。</p>	

充し、学力の向上につなげたい。また、ポートフォリオをとおして、多面的・総合的評価の充実を図りたい。

⑦読書習慣の定着と図書館利用の促進、特に「読書の面白さ発信」に引き続き取り組んでいきたい。

⑧新聞を取っていない家庭やネットニュースで情報を入れる者が増えているが、その分学校での新聞を使った取り組みの意味合いが高まっていると言える。今後も主権者となる高校生の社会的関心を高める取り組みを進めていきたい。

			⑧ 1 学年模擬選挙, 2 学年アクティブラーニングを交えた講演, 3 年生は年金セミナーを実施し, 社会参画の意義について考えた。	り, 依然読む習慣がない生徒もニュースを見るようになったと回答しており, 社会への関心が高まっている考えられる。		
4 進路指導の 充実	①生徒一人ひとりの 進路希望の実現に 努める。 ② IRP 活動の充実を 図る	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) A (所見) ①昨年度までの課題であった, 1, 2 年生の学習習慣の定着, 進路意識の高揚を図るための情報共有や協議・対策の機会を持つことができた。また, 学力を多面的・総合的に評価する大学なども増加しており, これに対応する支援体制の拡充が必要となる。 ② IRP においては地元徳島を対象化し, 探究活動を実施するとともに調査・研究手法も学ぶことができた。また, 京大, 徳大を中心として高大連携事業を実施し, 学知を活用し受験情報に偏らない興味や関心を喚起した。	きめ細やかな指導をされている。大学合格者数は, 今年度定員が少ないので例年より少なくなる。高大連携で ELCAS や大学での学習など積極的に取り組まれているが, そこで生徒が経験したことを校内で発表する機会があれば更に良い。高大連携によって生徒の進路決定にも大きな影響を及ぼすので, 今後幅広い生徒が参加できるよう取り組んでいってほしい。	①学力向上研究会を立ち上げ, 学力の分析, 学習習慣の定着, 進路意識の高揚のため, 組織的に取り組む体制ができた。今後, 内容を充実させ, 目的が達成できるように努めていきたい。 また, 高大接続改革, 新入試制度についての情報収集に努め, 教職員間で情報を共有するとともに, 生徒や保護者への適切な情報提供に努めたい。 ②高大連携は引き続き徳大, 京大を中心とした事業を展開し, イベントに終わらない継続教育をさらに発展させるべきである。昨年度の各種大学プログラムに参加した生徒より 1・2 年生に広報してもらった結果, 今年度, 京大 ELCAS 4 名, 阪大 SEEDS 2 名, 神戸大 ROOT 2 名が参加し, 貴重な経験を得た。しかし, 発表の場を設けるに至らなかった。徳大教養教育院・総合科学部との連携である「多言語ラボ」に関しては, さらに生徒が中国語やドイツ語に興味を持って取り組めるよう, 魅力的なものに発展させていく必要がある。
		①すべての生徒の進路について複数の教員で考える, 進路検討会を定期的実施する。 ①生徒と担任の二者面談週間を年間3回実施する。 ①生徒・保護者・担任の三者面談を年間2回実施する。 ①難関大学(旧帝大・東工大・一橋大・神戸大・国公立大医学部医学科・早稲田・慶応)の合格者数30人以上を目標とする。	① 3 学年は 5 回実施した。1, 2 学年は学力向上研究会に代えて各学期に 2 回実施した。 ①三者面談 1 年 2 回, 2 年 2 回, 3 年 3 回実施した。 ①二者面談 1 年 2 回, 2 年 2 回, 3 年 4 回実施した。 ① 41 名合格 (3 月 31 日現在)	① 3 年生 IRP については教員 IRP グループが 1~2 回程度の面談練習や講義を行った。志望理由書作りを行ったグループもある。満足度は 75.1%で昨年を上回った。昨年 69.8%。 ② 京都大学 ELCAS 参加生は全学年で 4 名であった。サイエンスフェスティバルは全国発表の機会を得なかった。 ② 1 年生は前半は「徳島を調べよう」後半は「北海道を調べよう」と題し徳島と北海道の比較を行った。3 月に IRP 発表会を行う予定である。また 2 年生は「徳島を考えよう」においてポスターセッションで中間発表会を行い, 年度末には各自がレポートを作成し, 教員が評価を行う。		
		活動計画	活動計画の実施状況			
	①生徒の志望の実現に向け, 学力を育成するための支援について学年団で話し合い, 指導力の向上を図る。 ①生徒一人ひとりの長所・適性を把握する。 ①入試制度に関する情報やデータの収集に努め, 進路説明会やホームページなどをとおして, 生徒や保護者に適切な情報を提供する。 ①大学等の出張講義や研究施設を積極的に活用する。 ①高大連携を推進するとともに, 連携事業への参加をうながすことで, 生徒の知見を広げる機会を増やす。	①進路検討会や学力向上研究会を通して指導方法の工夫や情報交換を行うことで指導力の向上に努めた。 ①生徒の状況を把握し, 上級学年を意識した声かけを行うため, 面談を実施している ①正確なデータや適切な資料を用い, 生徒や保護者へ具体的な方を提示するように努めた。 ①生徒や保護者に対して進路説明会や講演会を開催し, 情報提供や進路意識の高揚に努めた。 ①高大接続改革, 新入試制度についての研修に参加し, 概要などについてのレジュメを作成し, 教職員間で情報を共有するとともに, 生徒や保護者に文書を配付, 配信した。 ①長期休業日等において, 校外での体験学習への参加を促している。 ①大学や研究所と連携し, 生徒の参加できる機会を提供している。				
	②京都大学や徳島大学との高大連携事業を実施し, 広い教養をもとに最先端の学知にふれる。	②京都大学 ELCAS は, 3 名が理系分野, 1 名が文系分野のプログラムに参加し, 広く知識を得て考察できて				

			いた。徳大歯学部との連携で、新たに Jr.Student Lab が開講され、本校生徒が参加した。			
5 生徒指導の 充実	①集団生活における ルールを遵守させ、 マナーの向上を図 る。 ②遅刻防止の指導の 充実を図る。 ③特別なニーズを有 する生徒について、 支援体制を整える。	<p>評価指標</p> <p>①登校指導を毎日行う。 ①生活指導の集会を年5回以上実施する。 ①街頭交通指導を年20回以上実施する。 ①年2回いじめに関するアンケートを行う。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①4月、5月毎日 6月以降適宜行う。 ①全校集会を4回実施し、学年集会を1年6回、2年6回、3年10回実施した。 ①交通マナーアップ10回、学校安全の日10回実施した。 ①7月と12月にアンケートを行った</p>	<p>総合評価 (評定) A</p> <p>(所見) ①計画的に、また臨時に集会を実施し、ルールの遵守やマナーの向上を図った。 ②遅刻者数は毎年減少傾向と思われる。しかし、特定の生徒が目立つ状況であり生活習慣の指導を徹底する必要がある。 ③校内外の研修等を通して、教育相談・特別支援担当者の知識の習得やスキルの向上を図ることができた。</p>	<p>遅刻者は驚くほど少ないが、自転車事故の多さが課題なので、継続的な指導をお願いしたい。あいさつ運動を実施しているが、生徒会等活動に参加している者以外は挨拶が積極的とは言えないので、部活動が中心となって全校に広がっていくような取り組みを期待する。自転車のマナーについて生徒の意識が高まるような取り組み、ヘルメットの着用が進むような取り組みをお願いしたい。</p>	<p>①あいさつ運動は毎週月曜 日來年度も実施したい。 ②來年度も根気よく指導継 続したい。 ③特別な配慮を有する生徒 への支援方法に関する研 修等を、担当者以外にも 広げられるよう努めてい きたい。</p>
		<p>活動計画</p> <p>①年間計画に基づいて指導にあたる。 ①生徒会・交通委員とともに挨拶運動を展開する。 ①学年集会、全校集会で指導する。 ①毎月の交通マナーアップ運動の日、学校安全の日街頭指導をする。 ①いじめアンケート結果に基づいて面談を行う</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①生徒指導年間計画に基づいて適切に行った ①生徒を主体とするあいさつ運動は生徒会、交通委員とともに達成できた。 ①集会における指導は問題行動を防ぐ、交通マナー等生徒の健全育成に努めた ①毎月10日マナーアップ運動、20日学校安全の日、職員交通委員とともに達成できた。 ①各担任アンケート結果を配布した。</p>			
		<p>②遅刻指導強化週間を、学年単位で各学期に1回以上実施する。 ②1日当たりの遅刻者を10人以下を目指す。</p>	<p>②各学年1回実施した。 ②今年度1年2.1人、2年2.0人、3年2.2人であった。(昨年度2.2人)</p>			
		<p>③教育相談担当者と希望者による校内研修会を2回以上実施し、相談スキルの向上を図る。 ③各特別支援担当者が特別支援教育関係の研修等に1回以上参加する。</p>	<p>③年間2回(8月・11月)実施、本校スクールカウンセラーや、精神科医といった知識に基づいた講義内容であり、普段のカウンセリング姿勢の見直しにつながった。 ③特別支援担当者が1回以上研修・講演等に参加し、特別支援教育に関する知識や技能の習得を図ることができた。</p>			
		<p>②遅刻理由を把握し指導する。 ②遅刻の多い者には各学年団で指導を行う。</p>	<p>②遅刻理由を把握し、適切な指導が行えた。 ②各学年において遅刻指導を行った。</p>			
		<p>③1、2学期に1回ずつ以上、スクールカウンセラーの先生にアドバイザーを依頼し、模擬面談等を手立てに、体験型の研修会を実施する。</p>	<p>③夏季休業中に、本校の実情を踏まえた研修を実施、11月には精神科医を迎えて思春期に多くみられる症例と対処法の講座を実施し、多くの職員が研修に参加した。</p>			
6 特別活動の 活性化	①部活動の活性化に 努める。 ②ボランティア活動 や生徒会活動を活 性化する	<p>評価指標</p> <p>①部活動加入率 80%以上。 ①四国大会以上の大会への出場部数10部以上。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①部活動加入率 1年 126% 2年 92% 3年 108% 全体 109% ①四国大会以上の出場部数 四国大会 14部 全国大会 13部</p>	<p>総合評価 (評定) A</p> <p>(所見) ①②部活動が活発に行われており、生徒の満足度は高いと思われる。さらなる充実感が得られるような</p>	<p>部活動は加入率、成果共に大きな実績を上げており、徳島市立高校の特色にもなっている。活動が活発になる中で安全面にも配慮して推進して行ってほしい。</p>	<p>①継続して加入率の増加に 努めるとともに、競技実 績のアップにも努めてい きたい。 ②校内ボランティアは年3 回の実施を継続して実施 したい。 ②各種委員会による活動の</p>
		<p>活動計画</p> <p>②校内ボランティア活動を年3回実施する。 ②年3回生徒会新聞「フリーダム」を発刊する</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>②校内ボランティア活動を年3回実施した。 ②生徒会新聞「フリーダム」を3回発刊した。</p>			

		<p>①勉強と部活動との両立をHR活動や学年集会等で指導する。 ①部活動紹介・壮行会・表彰伝達式で意識の高揚を図る。</p> <p>②校内や周辺地域のボランティア活動を積極的に行い、豊かな人間性や社会性を育てる。 ②生徒会の活動をフリーダムに掲載することにより愛校心を養う。</p>	<p>①新入生オリエンテーションで部活動と勉強の両立を指導するとともに、部活動紹介で部活動に加入することを指導した。 ①総体・四国総体・インターハイ・国体壮行式を実施した。表彰伝達式を8回実施し、全校生徒に報告した。</p> <p>②1年生は1学期、2年生は3学期に清掃ボランティアを実施。 ②生徒会新聞を作成し、生徒の健全育成に努め、愛校心を養うよう努めた。</p>	指導の取り組みが求められる。	活性化に努力したい ②生徒会新聞「フリーダム」の内容をもっと充実したものにしていきたい。
7 安全教育と環境教育の推進	<p>①資源の有効利用や環境負荷の軽減、環境保全など、地球にやさしい学校作りに積極的に取り組む。</p> <p>②防災意識を高め、災害時に自らの命を守り、落ち着いて行動できる能力の育成に取り組む。</p> <p>③安全教育を推進するとともに、安全管理の一層の充実を図る。</p>	<p>評価指標</p> <p>①節電・節水に努める。 ①ゴミの分別、減量化に努める。 ①リデュース、リユース、リサイクルに努める。 ①環境委員による校内美化活動を年間10回実施する。 ①学校周辺地域の清掃活動を年間2回以上実施する。</p> <p>②防災について関心の高い生徒の割合を70%以上にする。 ②生徒の防災士資格取得者を育成する。 ②防災HRを計画、実施する。</p> <p>③保健委員会の環境衛生管理を年間15回以上実施する。 ③心肺蘇生法等に関する職員研修を年1回以上実施する。 ③熱中症防止の講演会を実施する。 ③保健だよりにより保健委員会コーナーを設け、年間10回以上発行する。 ③食育タイムスを発刊する。</p> <p>活動計画</p> <p>①毎月の電力、水道使用量を調べ、昨年同期との比較を行い、結果を全校に知らせる。 ①スイッチや蛇口に節電・節水呼びかける表示を貼り、注意を促し、使用していない教室等の照明をこまめに消す。 ①ゴミの分別を徹底する。 ①ペットボトルの分別回収、古紙の回収をおこない、印刷紙の裏面利用の徹底を図る。 ①環境美化に関するポスターや標語を作成する。 ①環境委員による校内美化活動を実施する。 ①学校周辺地域の清掃活動の日を設け、全校生徒で清掃奉仕活動を実施する。 ①定期的に校内放送で、環境美化や省エネについて、全校生徒に呼びかける。</p> <p>②年2回防災訓練を実施する。 ②授業を通して、自然災害についての理解を深め、防災</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①校内美化活動 11回実施</p> <p>①学校周辺地域の清掃活動 2回実施</p> <p>②防災に関心の高い生徒の割合 70.6% 昨年度 64.9% 一昨年度 64.1% ②防災士は4名が受検し、全員合格した。 ②防災HRを計画し、1回実施することができた。</p> <p>③保健委員会による校内環境衛生管理を年間21回実施することができた。 ③緊急時の対応について繰り返し周知徹底を行うとともに、心肺蘇生法・アレルギー対応研修を1回実施した。 ②熱中症対策講座を1回実施した。 ③保健だよりにより保健委員会コーナーを設け、年間11回発刊できた。 ③食育タイムスを年間10回発刊できた。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①毎月の使用電力量及び電気代を調べ、過去2年間と比較したものを掲示する事により、より一層節電意識を高めていった。また、事務室との連携により集中管理を行い成果を上げることができた。 ①ゴミの分別ができていないクラスや清掃場所をチェックし、そのたびに注意勧告を行う事により、分別状況が改善されるようになった。 ①ペットボトル、紙パックの分別回収を行ったり、職員室では印刷用紙の裏面使用の徹底を進めた。 ①環境委員による環境美化に関するポスターを作成し、環境美化活動を実施した。 ①校外清掃活動を企画し、地域周辺の清掃奉仕活動を行った。</p> <p>②1,2学期にそれぞれ防災訓練を1回ずつ(計2回)実施した。反省点を改善し、2学期には授業中からの避</p>	<p>総合評価 (評定) A</p> <p>(所見) ①「新学校版環境ISO」を継続申請し、「環境目標」、「行動方針・実施方法」、「役割分担・組織」などを掲示した。また環境委員を中心に省エネについて各クラスで呼びかけを行うなど、活発な活動を行う事ができた。使用電力量においても、少しずつ減少し成果をあげることができた。校内美化・ゴミの分別に対する意識は年々向上してきており、今後も継続的に啓発活動に取り組み、減量化にも努めていきたい。</p> <p>②毎回問題点を改善し、充実した防災訓練の実施を行うことができた。また、今年度から取り入れた防災HRを継続的に実施し、さらに防災意識を向上させ、自分はもちろん身の周りの人の生命を守るために日頃どのような準備・心づもりをすべ</p>	<p>各学期ごとに防災に関する新しい取り組みを進めてくれている。今後は感染症の予防に向けた取り組みについても強化していく必要がある。食育は学習活動への効果も高く、今の食生活が将来の子ども達の健康に大きな影響を与えるので強く進めていってほしい。</p> <p>①今年度「新学校版環境ISO」の継続申請を行い、環境委員を中心に校内外の清掃活動や清掃ボランティアに積極的に参加し、環境美化に取り組むことができた。ごみの分別、減量化や節電に関しては、まだまだ努力できると思われる。行動を記録し、掲示するなどして、意識の向上を目指していきたい。</p> <p>②防災人材育成センターの協力のもと教職員研修、防災LHR(1年講演、2年災害対応ゲームクロスロード)を実施し、災害対応を自らの問題として考える時間を持つことができた。2回の避難訓練においては様々な状況での被災を想定した訓練を実施できた。地域と共同で行う訓練に向け、意識の高揚を図っていきたい。</p> <p>③保健委員会の活動は、継続して続けていきたい。保健だよりの保健委員によるコーナーを今年度も設け、好評を得た。次年度も継続していきたい。職員研修については、次年度は防災と共同で行いたい。</p> <p>③昨年度から始めた食育タ</p>

		<p>意識の向上に努める。</p> <p>②防災通信を職員・HRに配布し、意識の向上に努める。</p> <p>②防災委員会を組織する事で、生徒の研修の機会を増やし、地域と連携した活動に繋げる。</p> <p>②防災センターと連携し、防災HRを計画、実施して意識の向上に努める。</p>	<p>難訓練を計画し実施した。</p> <p>②各教科において適宜自然災害についての話題を授業に取り組み実施した。</p> <p>②防災通信の発信が適宜でできなかった。</p> <p>②防災委員会において防災リーダーとしての意識を高め避難訓練の中心となり活動した。非常用のトイレづくりやダンボールベッド作成の講習を受けた。</p> <p>②防災人材育成センターと連携し、職員研修と防災HRを新しく計画し実施した。(1年講演会・2年クロスロードゲーム)</p>	<p>きかの啓発活動を工夫していく必要がある。防災委員会の活動が、主体的で継続的な活動になるよう環境を整え、地域との連携に繋げていく事が課題である。</p> <p>③保健委員会の活動や保健日より、食育タイムにより、安全や健康に関する意識を高めることにつながった。職員研修については、意義をあらためて考えてもらえるように働きかけ、防災とも連携して実施する必要がある。</p>	<p>イムの発信についても継続していきたい。その他にもエシカルまんが、紙しばいの作成、子ども食堂ボランティア参加、食藍を育てる等を行い、さらに幅広く活動をしていきたい。</p>
8	<p>グローバル化に対応した教育の推進</p>	<p>評価指標</p> <p>①台湾姉妹校訪問研修参加者、徳島大学異文化キャラバン隊参加者、サギノー短期留学参加者、多言語ラボ(中国語・ドイツ語)、多文化共生講座の満足度80%以上を確保する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①異文化キャラバン、サギノー短期留学、講座ともに満足度は80%を超えた。本年度は、異文化キャラバンに15名、サギノー短期留学に15名、台湾姉妹校研修に22名、多言語ラボ中国語・ドイツ語登録者ともに34名であり、幅広い参加者を得た。</p>	<p>総合評価 (評定) A</p> <p>(所見) ①世界各国の文化や言語を学び、また地元の徳島大学留学生との交流を活用しながら幅広いグローバル化に対応した教育を展開した。さらにNPOや諸団体の協力のもと、学内だけでなく、共に地域に向き、社会の中で交流する機会も設けた。</p>	<p>国際交流については、生徒への効果が大変大きいので、今後も続けてほしい。</p> <p>①比較的積極的な生徒がイベントに参加する機会が多く、同じ生徒が異なるイベントに参加していることがあるため、多様な生徒に参加を促すための工夫が必要である。</p> <p>①台湾姉妹校との交流は、継続化させるためにも隔年で相互訪問などの機会を設けるべきである。</p>
		<p>活動計画</p> <p>①自文化を理解するためにも、地元徳島の現状を学び、課題を発見し、解決法を模索できる思考力を育成する。そのためにもIRPにおいて、徳島探究講座を実施し、地域に向き、現状を理解する。</p> <p>①徳島大学教養教育院と協働し、異文化キャラバン隊への参加や、留学生訪問を通じて世界各地の社会や文化にふれる。</p> <p>①アメリカ・サギノーへの短期留学や、台湾・国立潮州高等中学、ドイツヘルバルトギムナジウム校との交流を通じて、アメリカ、アジア、ヨーロッパの高校生から幅広い知識を吸収する。</p> <p>①多言語ラボでの活動を通じて、英語に加えて中国語やドイツ語を学ぶことで多文化への理解を深め、視野を広げる。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①グローバル化の基軸は地域、中でも地元理解にあり、地域の集合として世界を捉える視点を獲得できるかにかかっている。そのため徳島とより広い地域を結ぶ探究活動を実施した。徳大との連携事業もこれに大きく貢献した。</p> <p>①1学年での徳大留学生交流会では生徒の多文化理解に成果を得ることができた。多言語ラボは徳島大学留学生や教授から文化や言語を継続的に学ぶ講座であるが、中国語・ドイツ語ともに登録者数が昨年より13人減少し、34名となった。</p> <p>①サギノー短期留学、台湾国立潮州高級中学への研修では、異文化を直接体験する良い機会となった。また、SNS等を通じて交流を続けている生徒も多く、実質的な交流が拡大、継続している。</p>		
9	<p>特色ある学校作りの推進</p>	<p>評価指標</p> <p>①学校ホームページへのアクセス件数 150,000件以上</p> <p>②PTA総会・各種研修会への参加率を増やす。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①アクセス数 240,405件 (4/6～3/31、昨年度 149,154件)</p> <p>②PTA総会の参加率 27.7% 昨年 24.7% 3年対象進路説明会 70.9% 昨年 68.9%</p>	<p>総合評価 (評定) A</p> <p>(所見) ①保護者宛文書リストをアップロードし、</p>	<p>今年のPTA総会は特に1年生の授業参観者が多く、関心の高さを伺ったが、学年が進むにつれてPTA活動から遠ざかっていく場合もあるので、保護者への情報の伝達など工夫していく</p> <p>①保護者、中学生、地域の方々のニーズに応じた情報の発信に努めたい。</p> <p>②PTA総会の出席者数が3割に満たないので、内容や運営方法について検討</p>

	<p>の教育活動に生かす。</p> <p>③学校行事を充実させると共に積極的な公開に努める。</p> <p>1 市高祭の公開 2 体験入学の実施</p>	<p>③市高祭の入場者数 1000人以上を目指す。</p> <p>③アトラクション・表現展示・バザールの参加団体数 42以上を目指す。</p> <p>③体験入学参加者数 900人以上を目指す。</p>	<table border="1"> <tr> <td>③市高祭の入場者数</td> <td>1588名</td> <td>昨年</td> <td>1301名</td> </tr> <tr> <td>③イベント数</td> <td>5</td> <td>昨年</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>アトラクション数</td> <td>14</td> <td>昨年</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>表現展示数</td> <td>24</td> <td>昨年</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>食品バザール数</td> <td>8</td> <td>昨年</td> <td>8</td> </tr> </table> <p>③体験入学参加者 1192名（中学生：950 保護者 242） 昨年 1151名（中学生：945 保護者 206）</p>	③市高祭の入場者数	1588名	昨年	1301名	③イベント数	5	昨年	7	アトラクション数	14	昨年	14	表現展示数	24	昨年	27	食品バザール数	8	昨年	8	<p>端末から閲覧，出力できるように追加した。また，授業の様子を写真や動画で配信するなど，積極的な情報提供に努めた。</p> <p>②今年も午前中に PTA 総会と進路講演会を，午後から進路説明会を実施し，昨年より若干参加者が増えた。更に参加率が上がるよう，実施形態や内容の検討を進めてた。</p> <p>③体験入学の参加者が毎年 1000 人を越えており，本校への関心を持っている中学生，保護者が多いことが伺える。特に今年は，体験授業が大変分かりやすかったと感じた中学生の割合が増加した。</p>	<p>必要がある。</p> <p>体験入学者数が大変多いが，学校の努力の表れだと思う。市高の広くて開放的な雰囲気は学校に入ればすぐにわかることなので，体験入学への参加者数を増やしてほしい。さらに保護者へのアピールの仕方も工夫したい。</p>	<p>の必要がある。家庭教育部文化教養講座は，参加者が満足できるような内容を今後の継続すると共に，参加者の幅を広げていく工夫を検討していきたい。</p> <p>③体験入学は毎年好評で，今後もアンケートを実施し，アンケート結果を次回に反映するように努力したい。</p>
③市高祭の入場者数	1588名	昨年	1301名																							
③イベント数	5	昨年	7																							
アトラクション数	14	昨年	14																							
表現展示数	24	昨年	27																							
食品バザール数	8	昨年	8																							
<p>10 情報教育の推進</p>	<p>①情報教育を推進する</p>	<table border="1"> <tr> <td>評価指標</td> <td>①年間 3 回以上，情報セキュリティや ICT 活用指導力向上等に関する研修会を実施する。</td> </tr> <tr> <td>活動計画</td> <td>①情報モラル教育年間指導計画を策定し，情報化の進展に適切に対応できる資質や態度を養う。</td> </tr> </table>	評価指標	①年間 3 回以上，情報セキュリティや ICT 活用指導力向上等に関する研修会を実施する。	活動計画	①情報モラル教育年間指導計画を策定し，情報化の進展に適切に対応できる資質や態度を養う。	<table border="1"> <tr> <td>評価指標の達成度</td> <td>①年度当初に校内情報システムについてのオリエンテーションを開いたほか，情報セキュリティに関する研修を 2 回実施した。県内外への研修会に多数参加した。</td> </tr> <tr> <td>活動計画の実施状況</td> <td>①情報モラル教育年間指導計画にもとづき，授業，ホームルーム活動，講演会をとおして，情報モラルの向上に取り組んだ。</td> </tr> </table>	評価指標の達成度	①年度当初に校内情報システムについてのオリエンテーションを開いたほか，情報セキュリティに関する研修を 2 回実施した。県内外への研修会に多数参加した。	活動計画の実施状況	①情報モラル教育年間指導計画にもとづき，授業，ホームルーム活動，講演会をとおして，情報モラルの向上に取り組んだ。	<p>総合評価 (評定) B (所見) ① ICT 活用指導力向上のための支援が不十分であった。</p>	<p>ICT の整備については経費もかかるが，学習に効果的な機材の導入について進めていってほしい。</p>	<p>①アクティブラーニング実践のための ICT 機器の拡充，活用方法に関する研修の実施などに課題がある。教職員の授業改善のための環境整備を進めていきたい。</p>												
評価指標	①年間 3 回以上，情報セキュリティや ICT 活用指導力向上等に関する研修会を実施する。																									
活動計画	①情報モラル教育年間指導計画を策定し，情報化の進展に適切に対応できる資質や態度を養う。																									
評価指標の達成度	①年度当初に校内情報システムについてのオリエンテーションを開いたほか，情報セキュリティに関する研修を 2 回実施した。県内外への研修会に多数参加した。																									
活動計画の実施状況	①情報モラル教育年間指導計画にもとづき，授業，ホームルーム活動，講演会をとおして，情報モラルの向上に取り組んだ。																									